

働きやすい職場づくり ～ 社員育成 ～

ビジネススクール

ハルナグループでは、創業時より、企業価値を生み出す人材の育成にこだわり、そのことにずっと力を注いでまいりました。そして、体系的知識の習得と自分の専門分野以外への見識を高めることを目的として、2005年4月にビジネススクールを開講いたしました。ビジネススクールでは、エグゼクティブ、ミドル、プライマリーの各コースに分かれて、原則として全社員が参加することとしています。ビジネススクールでは、客員教授による特別講義、社内講師による通常講義、合宿制のウィンタースクール等、様々な形を通じて、「企業価値を創造する人材育成」を推進してまいります。

2005年からの特別講座内容

2005年からの実績 講座単位:述べ275単位 講座時間:述べ413時間 受講者数:述べ5600名

2005年度 公開講座	2006年度 公開講座	2007年度 アントレプレナーシップコース	2008年度 エグゼクティブコース				
群馬大学 社会情報学部 田村 孝彦 教授	-ネットワーク組織論(1) (単独情報とその連絡)	丸紅マシナリー(株) 元社長 森田 茂 様	-自己意識改革と自己実現	経済ジャーナリスト 財部 誠一 様	-読者の思考 しい仕事として良い人生を おくるために	東京理科大学 大学院 教授 松尾 茂 様	-キリンビールラガーの生ビール化
	-ネットワーク組織論(2) (変化する社会と企業)	人材形成研究所 所長 水上 久忠 様	-会社を活性化させるためには 何が必要か	カゴメ(株) ユニットディレクター 杉山 喜久雄 様	-植物性乳酸菌飲料ラブレについて	群馬大学 社会情報学部 教授 寺石 賢英 様	-財務分析
	-ネットワーク組織論(総論編)	群馬大学社会 情報学部 教授 田村 孝彦 様	-人材形成戦略	群馬大学 地域共同研究センター 教授 須賀 篤 様	-イノベーション経営改革を		-投資経済分析
三菱商事(株) 元産業機械本部部長 佐野 昭八郎 様	-症状からのメッセージ 製造業の重要性(1)	群馬大学社会 情報学部 教授 田村 孝彦 様	-フレジマネージメント入門 I (知識創造企業を目指す経営学)	法政大学 経営学部 教授 松島 茂 様	-プロジェクト活動で イノベーションを	サッポロ飲料(株) 元代表取締役社長 岡 俊明 様	-飲料・食品業界に於ける市場変化 と消費動向
	-症状からのメッセージ 製造業の重要性(2)	毎日新聞社 読者委員 岸井 雄作 様	-フレジマネージメント入門 II (知識創造企業を目指す経営学)	法政大学 経営学部 教授 松島 茂 様	-企業家のビジョン 洗脳技術、制定製作所のケース		-飲料・食品業界に於ける これから求められる 商品とものづくりの視点
	-症状からのメッセージ 製造業の重要性(3)	三菱商事(株) 元産業機械本部部長 佐野 昭八郎 様	-中小企業の生きる道。 活動への期待 (大企業との役割分担)	サッポロ飲料(株) 元代表取締役社長 岡 俊明 様	-これからの会社はどうあるべきか	群馬大学 地域共同研究センター 教授 須賀 篤 様	-技術開発と技術経営
法政大学 経営学部 松島 茂 教授	-競争力の源泉(1) 事業システムの構想力	法政大学 経営学部 教授 松島 茂 様	-米国飲料業界に学ぶ (1)年間留学経験報告	ハルナグループ 代表 CEO 青木 清志	-グループ経営とアライアンス戦略		-コストダウン(コスト開発力)
	-競争力の源泉(2) なぜトヨタはフォードに 勝ったのか	群馬県産業支援機構 専務理事 長谷川 幸忠 様	-課題の事例研究 I (ハルナビレッジグループの ケース・スタディー)		-強い企業の実現に向けて+αが 成功の基	群馬県議会 議員 後藤 新 様	-人づくり組織づくり
	-競争力の源泉(3) 経営資源	群馬大学 地域共同研究センター 教授 須賀 篤 様	-課題の事例研究 II (ハルナビレッジグループの ケース・スタディー)		-ハルナグループの将来構想(2) 経営者の時代		
	-競争力の源泉(4) 企業の成長とアントレプレナーシップ	高崎健康福祉大学 健康福祉学部 江口 文隆 教授	-経営の創造性を高める ～元気企業に学ぶ経営革新の 着眼点～				
高崎健康福祉大学 健康福祉学部 江口 文隆 教授	-産官学連携の重要性とその実践	群馬大学 地域共同研究センター 教授 須賀 篤 様	-ケーススタディ ～自社の強み・弱み分析からの 経営革新の方向付け～				
	-きのこに学ぶ変化する社会への対応	群馬大学 地域共同研究センター 教授 須賀 篤 様	-技術者が修得すべき技術開発経営				
サッポロ飲料(株) 社長 岡 俊明 様	-市場環境変化とマーケティング	群馬大学 地域共同研究センター 教授 須賀 篤 様	-企業とグローバル化			ヨークマート(株) 元代表取締役社長 杉 伸一郎 様	-企業の成功例・失敗例 I -企業の成功例・失敗例 II
群馬大学 地域共同研究センター 須賀 篤 教授	-物産の技術の伝承を待とう	サッポロ飲料(株) 前社長 岡 俊明 様	-企業発展に向け求められること			群馬大学 社会情報学部 教授 田村 孝彦 様	-強い企業の実現に向けて +αが成功の基
	-環境にやさしいエネルギー	高崎健康福祉大学 経済学部 教授 岸田 幸彦 様	-作業者の作業意欲と動機付け				
高崎健康福祉大学 経済学部 岸田 幸彦 教授	-企業のリスクマネジメントと 安全文化、安全風土	毎日新聞社 経済部編集委員 岸井 雄作 様	-参加型人間工学と改善				
毎日新聞社 経済部編集委員 岸井 雄作 様	-町工場を取材して ～ものづくりの現場で見た課題	高崎健康福祉大学 健康福祉学部 教授 江口 文隆 様	-産業連携のケース・スタディー				
群馬県産業支援機構 専務理事 長谷川 幸忠 様	-群馬県の産業構造の特徴と課題 ～これまでとこれから～	経済ジャーナリスト 財部 誠一 様	-ハルナグループ代表 CEO 青木との会談～経営談～				
人材形成研究所 水上 久忠 様	-管理職の人材形成						
カゴメ(株) 横田 哲也 部長 様 末田 隆男 課長 様	-野菜と健康						
清いハルナビレッジ研究所 小林 政司 監査役	-野菜と健康						
ハルナビレッジ(株) 代表取締役社長 青木 清志	-新しい時代への製造業構想						



ウィンタースクール

● 受講対象者：
ハルナグループ企業の幹部（指名）

● 研修時間：
一泊二日の合宿

● 研修場所：
音羽倶楽部（前橋市神沢の森）

● スケジュール：
・オープニングセッション
・セミナーアワー
・ホッネットークアワー
・コミュニケーションアワー
・エクササイズアワー
・クロージングセッション

● 講師（当日開講順）

NHKメディアテクノロジー（株）代表取締役副社長
三浦 真吾 様

群馬大学 共同研究イノベーションセンター教授
須齋 高 様

（株）ネットパートナーズ マーケティング本部長
丹治 穂積 様

サッポロ飲料（株）元代表取締役社長
岡 俊明 様



～参加者の感想～

ウィンタースクールで様々な業種の経験豊富な講師のお話を伺い、普段何気なく取り組んでいる業務について改めて考え直す必要があると感じました。今までの成功体験をそのまま次に活かすのではなく常に新しい発想で挑まなければ、それは停滞、大企業病へと繋がるという事に気がきました。業務を抱えているとどうしても自分の仕事を振り返ったりする機会が少なくなりがちですが、取って新しい方法でチャレンジするのも成長に繋がるのではないかと思います。



今回のウィンタースクールでは、製造側の内容と営業（マーケティング）の内容と両サイドからの講師の方々のお話の内容だったと思います。自分の日々の業務を思い返しながらか話を聞かせていただいたのですが、いかに、自分の考えが足りないかという事が浮き彫りになった気がして、話を聞きながら恥ずかしい思いもありました。ただ、今回の様な貴重な体験をさせていただいた事により、今後まず自分の何を変えるべきなのかという所も明確になった気がします。この度は、色々なお話を聞かせていただいた講師の方々、又ウィンタースクールに参加をさせていただいた事をお礼申し上げます。ありがとうございました。又、次回参加させていただける様、日々の業務に努力していきたいと思ひます。

ビジネススクール

客員教授 (講義開講順)



経済ジャーナリスト
財部 誠一 様

フリーランスジャーナリストの財部誠一先生。金融、経済誌に多く寄稿され、気鋭のジャーナリストとして期待される先生です。TVやラジオでも活躍中で、経済界の政策提言もされていらっしゃる財部先生をお迎えし、現代市場を背景に変動する経済・経営・金融等、ご教示頂きます。



国立大学 群馬大学
社会情報学部 教授
寺石 雅英 様

寺石先生の専門はファイナンス論、起業論、交渉論。大学では「経営学」「ファイナンス論」「ベンチャー創造の人間学」「必勝法の経済心理学」「エンタテインメントの経営学」「財務分析・投資経済分析・企業価値評価・意思決定バイアス」をご指導頂きます。



国立大学 群馬大学
社会情報学部 教授
田村 泰彦 様

「経営情報論」「ネットワーク組織論」「ナレッジマネジメント」が専門です。「企業における意味情報の重要性」や「企業における暗黙知伝播の方法」「新・ナレッジマネジメント研究」等をご教授いただいています。



国立大学法人 群馬大学
研究・産学連携戦略推進機構
客員教授
須齋 嵩 様

「技術経営」「知的財産戦略」「企業の研究成果を事業化に生かす」「グローバル事業戦略」「燃料電池、空調・冷凍機器」「環境エネルギーシステム機器」が専門です。「技術経営」をご教授いただいています。



食品流通研究会代表
ヨークマート(株)
元代表取締役社長
杉 伸一郎 様

元ヨークマート(株)代表取締役社長の杉先生は、ご経験と知識を生かし、現在、食品流通研究会代表でいらっしゃいます。経営流通のプロフェッショナルである杉先生は「企業の成功例失敗例」で食品流通の厳しさを示唆に富むお話してご講義を頂いています。



毎日新聞 東京本社
編集局 編集委員
岸井 雄作 様

毎日新聞社で経済部に長く所属し、主にマクロ経済を担当。2003～05年に中小企業取材チームを指揮し、不良債権処理に伴う貸し渋り・貸しはがしに切り込んだ。07～09年水戸支局長、09年4月から編集局編集委員。スクールでは次世代育成への取り組みを促す「技能伝承」と、信頼深い報道現場の立場から「食の安全」をご教授いただけます。



野村證券(株) 元代表取締役専務
(株)ジャフコ 元代表取締役副社長
日本ベンチャーキャピタル(株)
元代表取締役社長
津田 晃 様

独立系VCで従前とは異なる支援型の本格的ベンチャーキャピタルの代表取締役社長を今年退任され現在は顧問に就任されております。それ以前の野村證券(株)・(株)ジャフコでの株式や債券など有価証券への投資・引受、財産運用と管理、経営コンサルティングなど豊富な経験より実践的な「金融論」を教授頂きます。



東京理科大学大学院
総合科学技術経営研究科 教授
松島 茂 様

専門は企業家活動論、中小企業論。1973年、通商産業省(現・経済産業省)へ入省。南東アジア大洋州課長、中小企業庁計画課長、大臣官房企画室長、工業技術院審議官、中部通商産業局長を歴任の後、大学教授へ、現在では通商産業政策史編集委員、編集副主幹でもいらっしゃいます。



アイ&オーマーケティング代表
サッポロ飲料(株)
元代表取締役社長
群馬大学 客員教授
岡 俊明 様

大学卒業後、サッポロビール株式会社に入社され入社後は、本社企画部企画課に配属。商品企画部長、京都支社長、営業部長などを歴任し、2000年取締役役に。取締役兼専務執行役員を経て、03年6月サッポロ飲料の社長にご就任。2006年「アイ&マーケティング」を設立され、2008年群馬大学客員教授でもいらっしゃいます。



群馬県議会議員
群馬県元知事室長
後藤 新 様

自治省国際室での勤務。通産省中小企業庁では中心市街地の活性化に取り組む。地域振興や財政、産業振興や労働対策など県政の各分野で活躍。群馬県知事を補佐し群馬県出納長、群馬県知事室長を経て、現在は群馬県議会議員としてご活躍です。



NHKメディアテクノロジー(株)
顧問
元NHKコンピュータサービス(株)
元代表取締役社長
三浦 真吾 様

NHKの開発部長、放送技術局長を歴任、デジタルハイビジョンの普及に貢献されその後NHKコンピュータサービス代表取締役社長等を歴任、そのご経験より放送・通信及びIT分野を専門に、ご教授いただけます。



群馬大学 社会情報学部
准教授
博士(工学)
杉山 学 様

本年度より、ご教授いただけます。ご専門は「数理的意思決定支援手法に関する研究」「多基準評価による人事評価問題」「国鉄の分割・民営化における経営効率評価」「首都機能移転計画のための総合評価手法の開発」など。オペレーションズ・リサーチ/経営科学・経営情報学・経営工学をご指導頂きます。



ハルナグループ技術顧問
株式会社ハルナビバレッジ研究所
元代表取締役社長
跡田 潔 様

ハルナビバレッジ創業当時から「管理や生産の基礎について」生産現場の指導を頂いています。近年では、総合衛生管理製造工程(HACCPC)の認証取得業務を担当いただき衛生部門の専門としてご教示頂きます。



群馬銀行 元支店長
群馬キャピタル(株) 元取締役
小林 欣司 様

ベンチャーキャピタル取締役の経験からベンチャー企業の育成知識に豊かでいらっしゃいます。長年にわたりハルナビバレッジ(株)の監査役として経営指導をいただいていた。地元経済界を知悉していらっしゃいます。



コンプライアンスへの取り組み

ハルナグループでは、企業活動の源泉はコンプライアンスであり、単に法令の遵守だけにとどまらず、礼儀といったことも含め「人の道」を重んじ、社員一人ひとりが高い倫理観をもって、企業としての価値、社会的存在意義を高めていかなければいけないと考えています。

コンプライアンスの推進

ハルナグループでは、コンプライアンス規程及び服務規律規程において、「人として」「企業人として」「ハルナグループの社員として」遵守しなければいけない事項を具体的に定め、社員一人ひとりが共通認識を得て、実行できるよう取り組みを行なっています。

コンプライアンス研修会

コンプライアンスへの関心を高め、正しい知識を付与するため、定期的に研修を行なっています。

コンプライアンスセルフチェックシート

年に一度、役員及び社員全員に対し、自らの考え方や行動が法律、規程、社会的良識に沿ったものなのかの確認を行なわせるため、セルフチェックを行なわせています。

コンプライアンス誓約書

年に一度、コンプライアンスの意志付けと共通認識の徹底を図るべく、誓約書の提出を行なわせ、常に行動が伴うよう取り組みを行なっています。

相談窓口

全ての社員が個人で問題を抱え込まないように相談窓口を設け、電子メール、電話、郵便などの手段を用いて連絡が出来る体制を整えています。

なお、セクシャルハラスメントに関する相談や通報などについては、女性の担当者を配置し、連絡通報強化に取り組んでいます。

相談窓口を利用した社員の秘密は厳守し不利益な取扱いを厳に禁止しています。

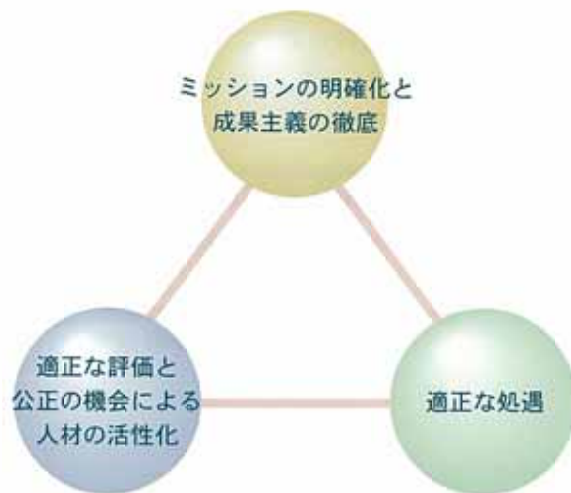
社員への取り組み

ハルナグループでは、人事基本理念を制定し、「自立」と「自律」を重んじる人材育成を行なうと共に、すべての社員に適正な評価と公正の機会を与え、高い志を持ち自己実現できる環境づくりを進めています。

人事基本理念 『企業価値を創造する人材育成』

- 適正な評価と公正な機会を与え、社員一人ひとりが主体性・創造性・チャレンジ精神をもち、個人の能力を最大限に活かし自己実現を図ることを目指します。
- 業務の効率と合理化に努めるとともに、常に高い志と目標で自ら行動していく「じりつ型」人材の育成を目指します。
- お互いの人格と個性を尊重し自主性と創造性を生む人材の育成を目指します。
- 個人の自己責任と自発性を尊重し、社員が意欲的に働ける職場づくりを目指します。

新しいロイヤリティと継続的な利益創出に向けて



急速な環境変化に的確に対応し、社員自身が仕事を楽しみ、そして前向きになり顧客への歓喜を生み、継続的な利益を生み出すことを目的とし、動機付けとしてのloyalty(忠誠心)を共に養っていきたいと考えています。



新しいロイヤリティと継続的な利益創出に向けて

- ① 相手を大切に思う気持ち
- ② 一方的ではなく双方向的(ひとを大切にす企業、双方が得をする)
- ③ 多重的(会社だけでなく、家族、趣味、顧客、株主、地域社会など)



「思いやる心」が一番重要であり、また会社や仕事オンリーではなく、プライベートライフや趣味も充実させ、いい仕事をする事だと考えています。組織変革には、「会社が好きだ。好きだからもっとよい会社になりたい」という社員が会社を大切に思う気持ちと、「社員はもっとよい会社になることを望んでいる。その希望が実現できればもっとよい会社になるし、社員も働きやすくなる」と会社が社員を大切に思う気持ちが交流し、双方向的に働かないと成功しないと考えています。

